水稲の生育状況と今後の管理対策（第２号）

令和２年６月 11 日
新潟県農林水産部

〔６月 10 日現在の生育状況〕

コシヒカリ

◎　指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「多い」、葉数の進みは「早い」、葉色は「並」の状況です。

新　之　助

◎　指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「並」の状況です。

（参考）こしいぶき、つきあかり

○　長岡市に設置した調査ほ場では、いずれも指標値より茎数が多く、生育量は十分確保されている状況です。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

◎　６月４日発表の１か月予報（６月６日から７月５日まで）によると、平均気温は平年より高く、特に期間の前半はかなり高くなると予想されています。

◎　北陸地方は６月 11 日ごろに梅雨入りしたと見られます（平年は６月 12 日ごろ）。

◎　平年に比べ気温は高い傾向が続く見込みであることから、梅雨入り後の降雨と曇天により、草丈と茎数の急激な増加が懸念されます。

〔管理対策のポイント〕

早 生 品 種

◎　中干しの効果を高め、根の健全化やほ場の地耐力の向上を図り、フェーン等の緊急時に速やかなかん水が行えるよう、溝切りを確実に実施してください。

◎　多収栽培で肥料を多く施用したほ場では、いもち病が発生しやすいため、病害虫発生予察情報に注意し、葉いもちの発生を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行ってください。

コシヒカリ

◎　中干しの開始が遅れているほ場が多く見られます。ただちに中干しを開始してください。

◎　中干しは、田面に小さなヒビが入り、軽く足跡がつく程度とします（４ページ参照）。

◎　生育量が指標値に比べ大きくなっているほ場では、強めに中干しを行い、茎数の増加を抑えてください。

◎　高温が続き、田面に大きなヒビが入ることが想定される場合には、走り水かん水を行ってください。

◎　中干しの効果を高め、根の健全化やほ場の地耐力の向上を図り、フェーン等の異常高温時に速やかなかん水が行えるよう、溝切りを確実に実施してください。

◎　溝の間隔は約３ｍ（10 条に１本程度）、溝の深さは 10㎝以上とします。タテ溝とヨコ溝を連結し、必ず水口と水尻につないでください。

新　之　助

◎　茎数が増えやすい品種特性がありますので、「食味・品質基準」を達成するため、中干しにより適正な生育に制御してください。

　特に、化成の全量基肥肥料*2 では、茎数がより増えやすいので、十分に注意してください。

◎　今後も気温の高い状況が続く見込みです。茎数を確実に確認し、中干しを遅れずに実施するとともに、溝切りも確実に実施してください。

◎　いもち病抵抗性は強くありません。いもち病の箱施用剤を使用していない場合は、必ず葉いもち防除を行ってください。

◎　補植苗は、葉いもちの伝染源になるので、速やかに除去してください。

熱中症予防

◎　平年より最高気温がかなり高い日が続く見込みです。

◎　溝切りなど、屋外での農作業では飲料水や日陰を十分に確保するなど、事前の熱中症対策を進め、健康管理に十分注意してください。

*1 中干し：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと
*2 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前又は田植え時に一括して施す施肥法

◎　今後の管理対策発信予定日
６月 19 日、７月１日・９日・21 日・28 日・31 日、８月 21 日、９月 11 日

〔補足資料〕

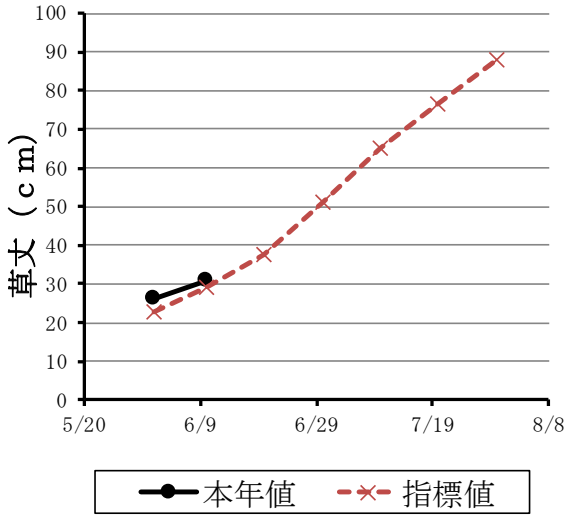
1　農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（６月 10 日現在）

コシヒカリ

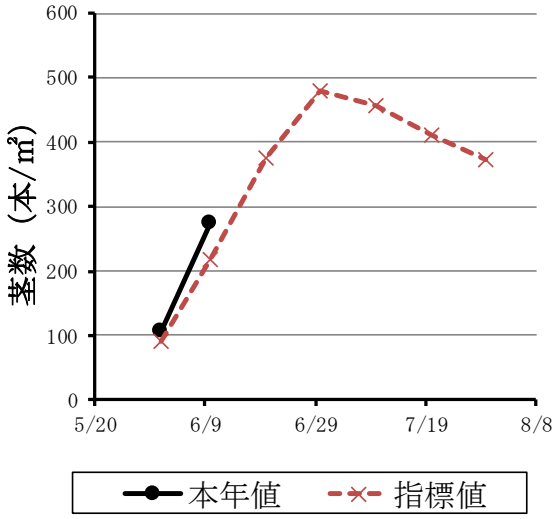
○　指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「多い」、葉数の進みは「早い」、葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値（県平均）	指標値との比較	指標値比・差
草丈	31 cm	29 cm	やや長い	107%
茎数	274 本/㎡	218 本/㎡	多い	126%
葉数	7.5 葉	6.8 葉	早い	+0.7 葉
葉色（SPAD 値）	37.3	36.7	並	+0.6

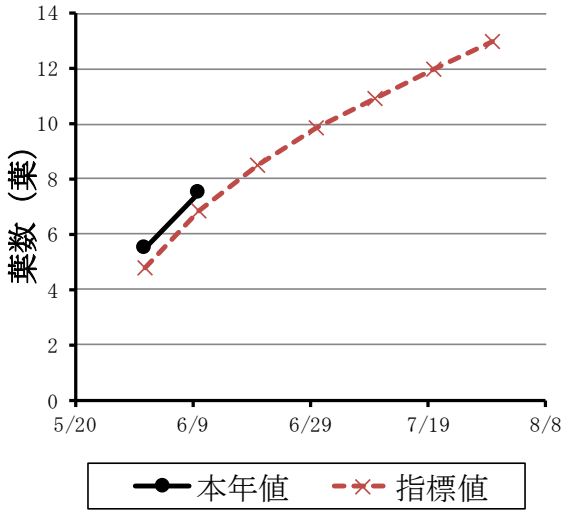
注）県内全域の 117 生育調査ほデータの平均値（田植え５月 10 日、栽植密度 16.9 株/㎡）



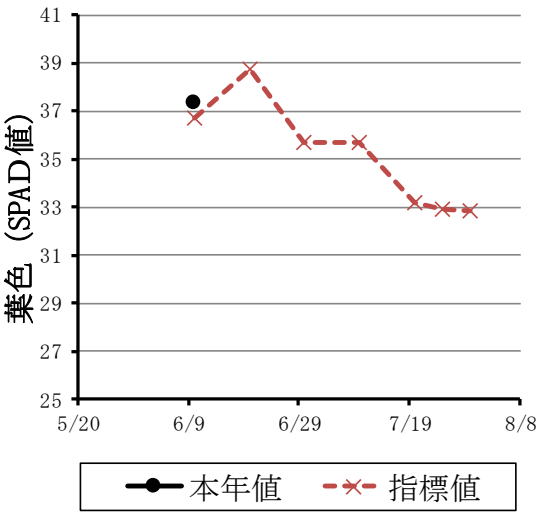
草丈の推移
（県全体）



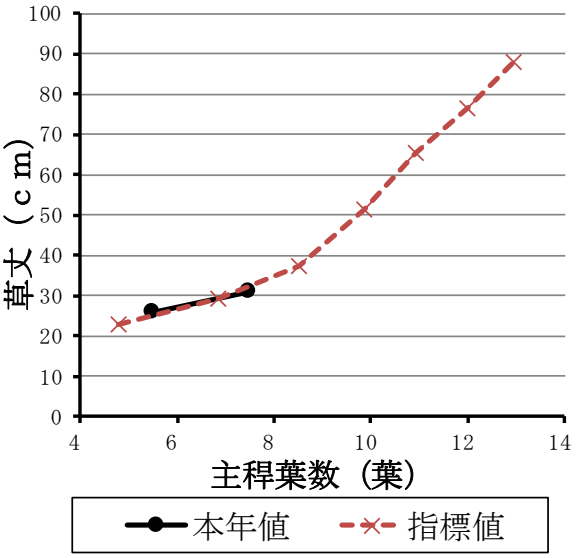
茎数の推移
（県全体）



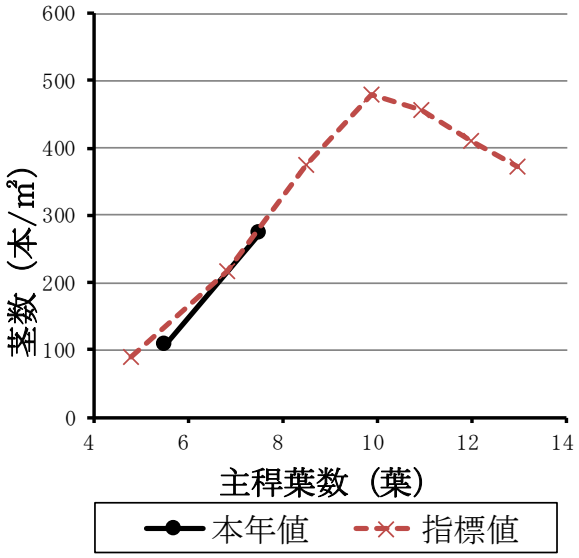
葉数の推移
（県全体）



葉色の推移
（県全体）



葉数と草丈
（県全体）



葉数と茎数
（県全体）

◎　ただちに中干しを開始する。
◎　フェーン等の緊急時に速やかなかん水が行えるよう、溝切りを確実に実施する。
◎　生育量が大きくなっているほ場では強めの中干しを行い、茎数の増加を抑制する。

中干しの強さは、小ヒビが入る程度（上の写真程度）。

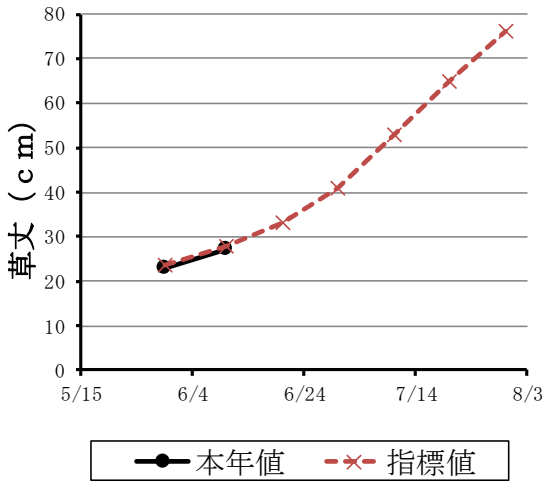
乾かしすぎて大ヒビが入ると、根の切断や発根が抑制される。

新之助

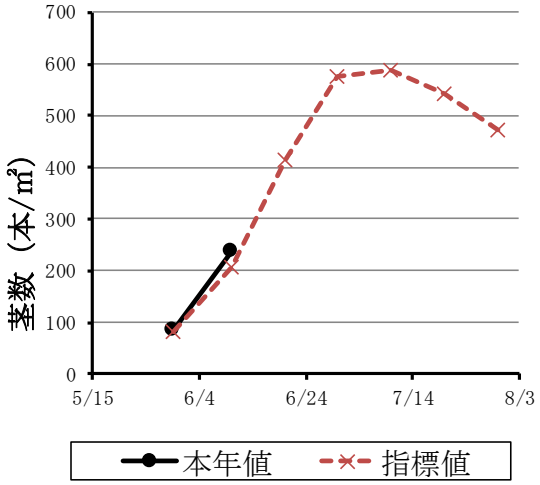
○　指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値（県平均）	指標値との比較	指標値比・差
草丈	27 cm	28 cm	並	96%
茎数	238 本/㎡	207 本/㎡	多い	115%
葉数	7.2 葉	6.8 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色（SPAD 値）	36.9	36.0	並	+0.9

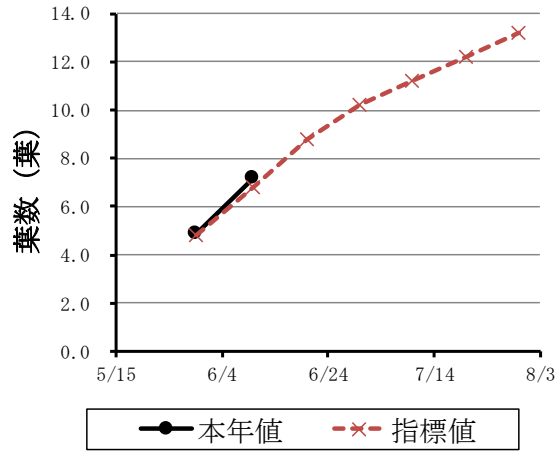
注）県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値（田植え 5 月 17 日、栽植密度 16.4 株/㎡）



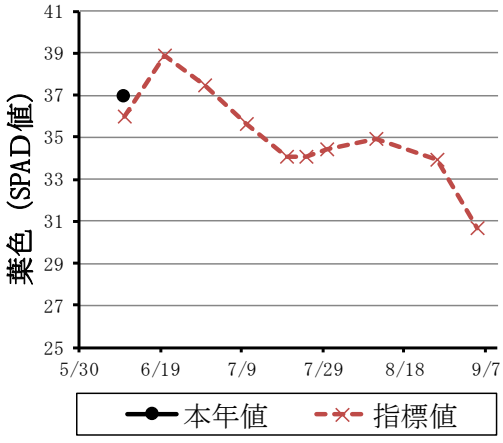
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

◎　化成の全量基肥肥料では、茎数が増加しやすいので注意する。
◎　茎数を確実に確認し、中干しを遅れずに実施する。
◎　いもち病の箱施用剤を使用していない場合は、必ず葉いもち防除を行う。
◎　補植苗は速やかに除去する。

こしいぶき

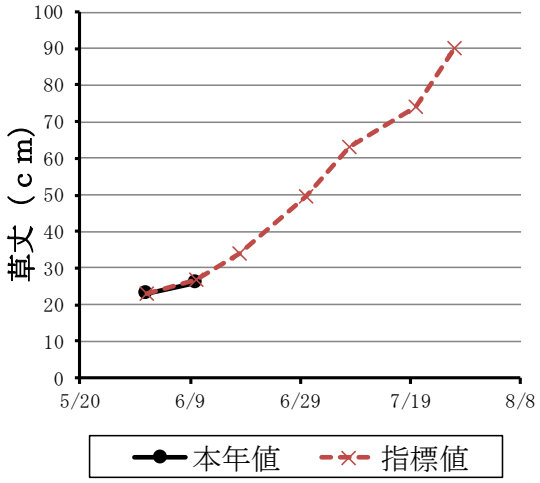
○　指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「濃い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	26 cm	27 cm	並	96%
茎数	379 本/㎡	326 本/㎡	多い	116%
葉数	8.1 葉	7.6 葉	やや早い	＋0.5 葉
葉色（SPAD 値）	41.9	39.9	濃い	＋2.0

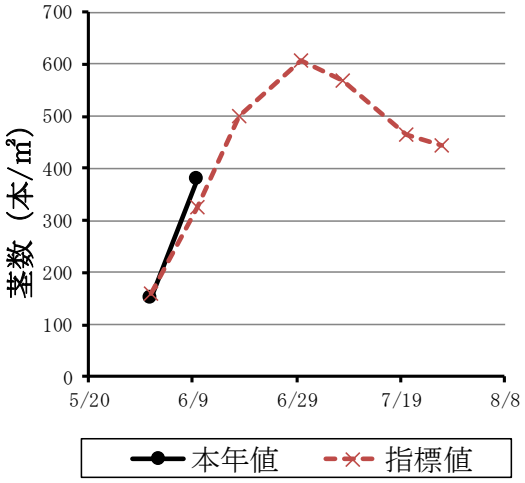
注１）化学肥料栽培　田植え５月 11 日、栽植密度は 19.8 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　3.0kg/10a

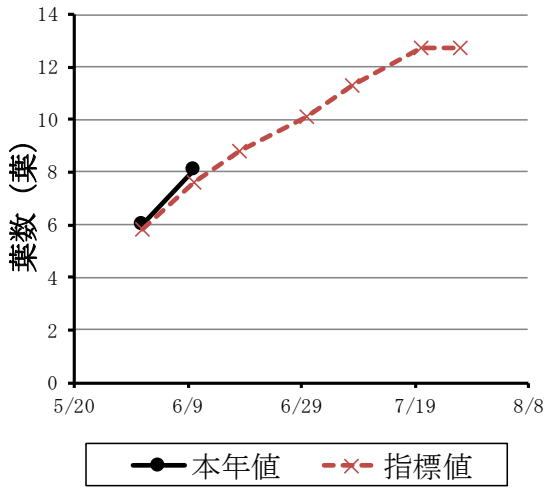
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



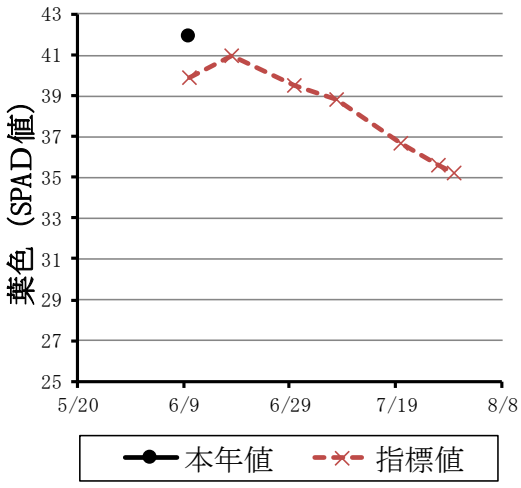
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

ゆきん子舞

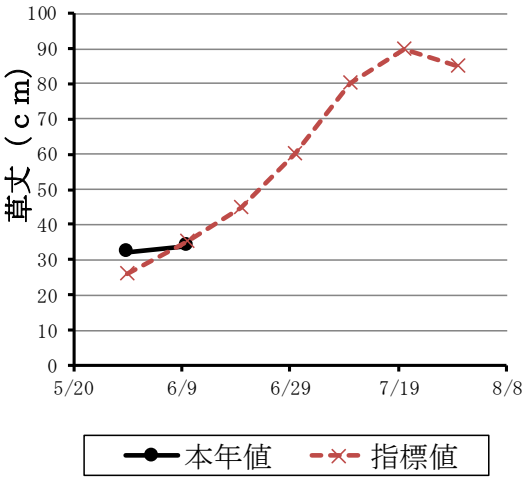
○　指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや少」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや濃い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	34 cm	35 cm	並	97%
茎数	353 本/㎡	380 本/㎡	やや少	93%
葉数	8.4 葉	8.0 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色（SPAD 値）	41.8	40.0	やや濃い	+1.8

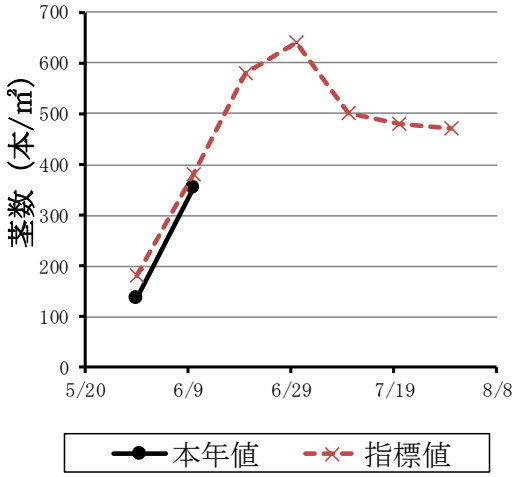
注１）化成肥料栽培　田植え５月１日、栽植密度は 18.6 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　2.8kg/10a(前作枝豆)

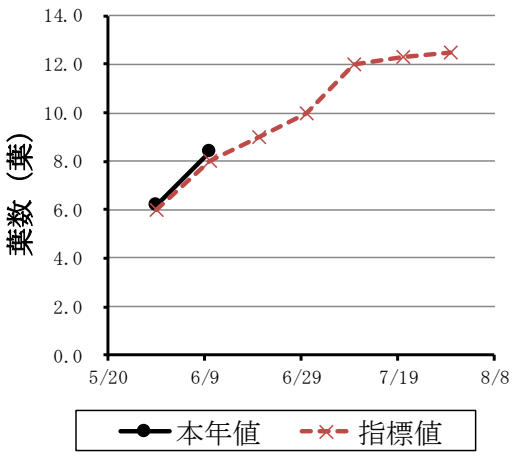
注３）長岡市高野町の生育調査ほデータ



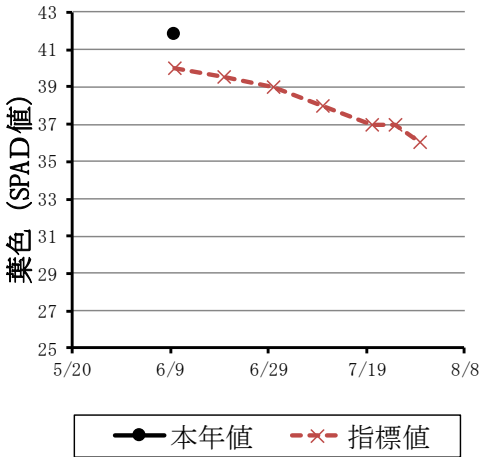
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

つきあかり

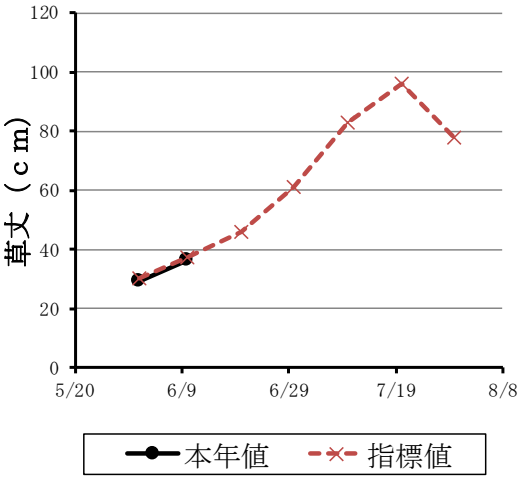
○　指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「多い」、葉数の進みと葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	36 cm	37 cm	並	97%
茎数	348 本/㎡	300 本/㎡	多い	116%
葉数	8.1 葉	7.8 葉	並	+0.3 葉
葉色（SPAD 値）	41.6	42.0	並	−0.4

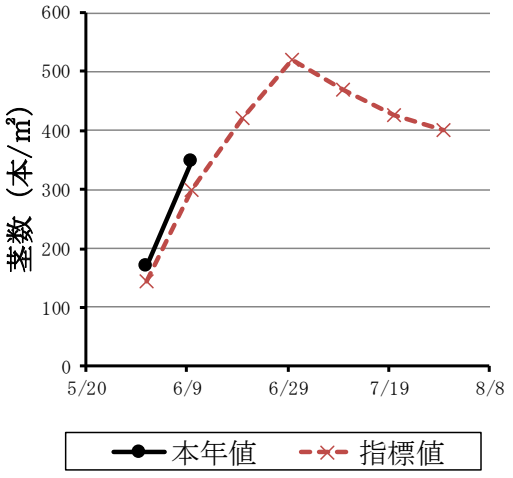
注１）化学肥料栽培　田植え５月７日、栽植密度は 21.2 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　7.0kg/10a

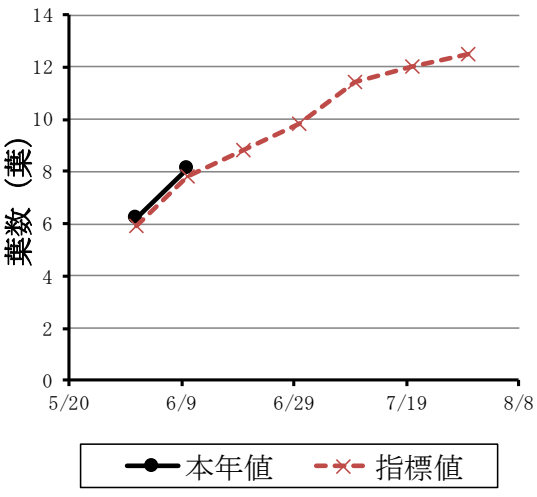
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



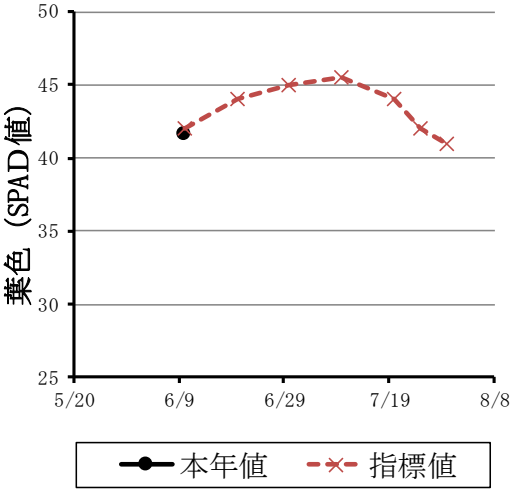
草丈の推移



茎数の推移



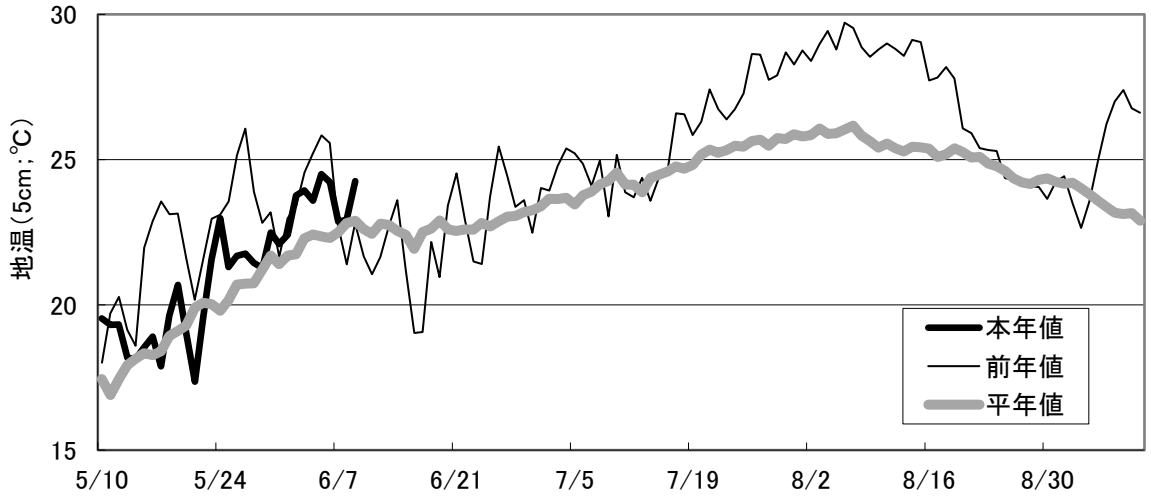
葉数の推移



葉色の推移

2　地力窒素（ちりょく）の発現状況

○　６／１～６／９の期間の日平均地温は平年差＋1.3℃ですが、この期間の地力窒素の発現量は、前回の数値が高かったため平年より少なく、条間窒素は平年並に推移しています。



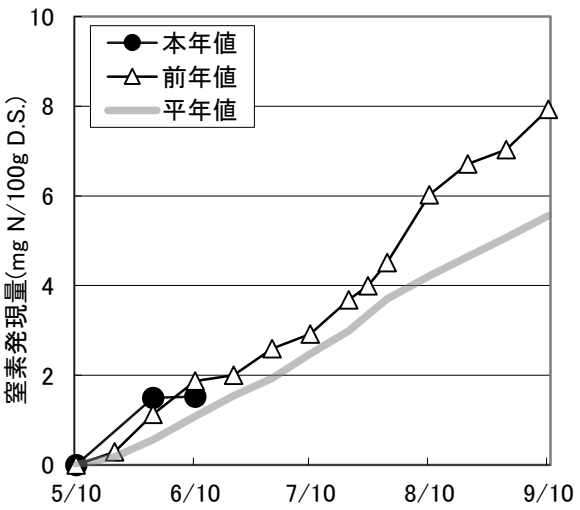
地温（５㎝）の推移

地力窒素の発現状況（農総研基盤研究部調査）　　(mgN/100g)

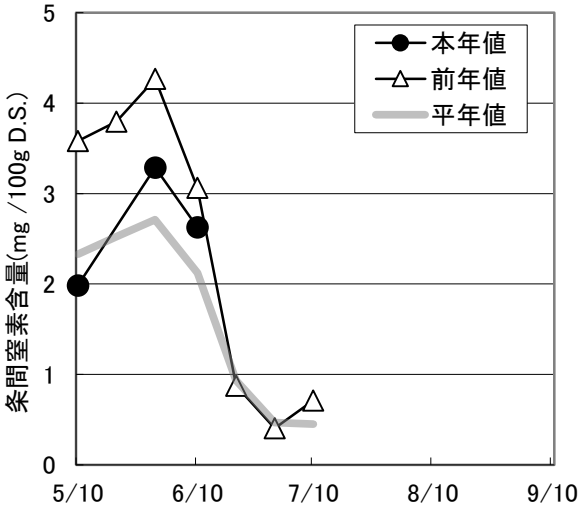
	５月 31 日①	６月９日②	地力窒素発現量※1 (③＝②－①)
本年値	3.5	3.6	0.1
前年値	4.7	5.5	0.7
平年値	2.9	3.4	0.5

※１　小数点２ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

※２　化学肥料でＮ成分 3.5kg/10a 施用。移植日：本年５月 11 日（平年５月 10 日）。



地力窒素の発現推移
（初期値を０とした）



条間窒素含有量の推移